

高学年 3組 外国語科学習指導案

平成29年 2月 9日 (木) 公開授業 I
平成29年 2月10日 (金) 公開授業 II
会場 3階 (R) (6年1組教室)
授業者 新潟大学教育学部附属新潟小学校
教諭 茂木 智弘

1 単元名 「A letter to ...」 — 新教材Lesson 6 —

2 本単元の価値

次期学習指導要領では、中学年の外国語活動の開始と、高学年の教科化が発表されている。しかし、具体的なカリキュラムや学習内容、指導方法については、示されていない。本提案は、高学年教科化に向けた授業をつくりの1つの在り方として提案する。
提案内容は、以下の通りである。

- | |
|---|
| <p>1 学習過程</p> <ul style="list-style-type: none">① 設定された課題 (目的・場面・状況等) を理解する。② 目的に応じたコミュニケーションに向けた見通しを立てる。③ 目的達成のための具体的なコミュニケーション活動をする。④ 内容面・言語面の振り返りをする。 <p>以上のような答申で示された課題解決に向けた学習過程を具現した単元構成、指導内容・方法について新教材を想定して提案する。</p> <p>2 見通し段階における思考・判断・表現のさせ方 子どもは課題解決に向けた方法について考える。「読むこと」「書くこと」の定着を求めない小学校においてどのような指導の在り方があるのかを提案する。</p> <p>3 振り返りのさせ方 内容面・言語面両面の振り返りは、今まであまりされてきていない。評価も含めてどのような振り返りのさせ方があるのかを提案する。</p> |
|---|

新教材「A letter to ...」は、子どもが絵本教材を通して、仲間の大切さに気付き、世界平和について考え、互いの思いを伝え合うこと (内容) を目標としている。また、その際動物を中心とした語彙と「[~ is chasing ~]」を中心とした基本的な英語表現に慣れ親しみ、使うことができる (言語) 姿を目指している。
本実践では、次の価値を上記提案の中で具現する。 ※=関連する他の Lesson

- | |
|---|
| <p>1 世界平和に大切なことを考えさせる内容 (主に態度) 登場する様々な動物が仲良く鬼ごっこをしたり、友達の意見を尊重したりする場面を通して、世界平和とは、互いを尊重し、認め合うことであることに気付く。</p> <p>2 音と文字の認識 (主に知識・技能) 動物の頭文字の音と文字をつなげていくと、「World Peace」という言葉が浮かび上がっていく仕掛けから音と文字の関係に気付く。 ※ Hi, friends!1 Lesson6 Hi, friends!2 Lesson1</p> <p>3 語順の気付き (主に知識・技能) 動物たちが鬼ごっこをする場面から、[主語 (S) is chasing 目的語 (O)] の関係について活動を通して体験的に学び、気付く。</p> <p>4 構成・表現の工夫 (主に知識・技能と思考力・判断力・表現力) 絵本教材の内容を基に、既習の語彙や英語表現 ([can] [is chasing] 等) を使って、自分の思いを伝えることができる。 ※ Hi, friends!2 Lesson3 Lesson7</p> |
|---|

まず、社会科、道徳、総合的な学習の時間等で国際理解の内容を学んでいる子どもに並行して「A letter to ...」の絵本教材を提示する。すると子どもは、物語の内容に着目し、鬼ごっこで必要な新しい語彙や英語表現に興味をもつ。そこで、物語の内容と同じように英語で鬼ごっこをする体験等をしながら、語彙や英語表現に慣れ親しませる。子どもは、絵本教材に沿って語彙や英語表現を聞いたり、話したりする。この時、意識を言語に向かせるのではなく、内容やその意図に着目させる。すると子どもは、既習の知識 (社会科、道徳等) を基に、世界の現状や諸問題に着目するという「見方・考え方」を働かせて、世界平和について真剣に考えるようになる。このような子どもに、普段から交流している中国の小学校の先生から、「みなさんの考える World Peaceを知りたい」という依頼がある。中へる内容とそのために必要な英語を考えるようになる。中国・英語の先生・テレビ電話という場面や状況に応じて、自分の思いを伝えるために必要な情報と英語とを関係付けるという「見方・考え方」を働かせ、表現内容と方法を考える。子どもは、自分の思いを伝える。すると子どもは、自分たちが描いている思いが伝わっていないことに気付く。そこで、目的に気付くように、自分たちの思いを再度意識した子どもは、自分の思いを伝えるために必要な要素に気付く。このように、子どもは、考えた表現内容と方法を追加・修正させ、実際に伝え合うようになる。子どもは、自分の思いを様々な資質・能力を発揮しながら、伝え合う互いの思いの共有が図れたところで、内容面と言語面の振り返りをさせる。そうすることで、発揮した資質・能力の自覚をして、次でも使おうとする態度を育てる。

3 本題材で目指す姿

相手の反応に対し、必要な情報や英語を考えながら、コミュニケーションを図る子ども
 具体的には、中国の先生の反応に対し、伝えたい情報や考えと外国語とを関係付けるとい
 う「見方・考え方」を働かせ、基本的な英語表現（[can],[is chasing]）を基に、自分の思いを伝
 えたり、中国の先生の思いを知ったりする姿。

4 本単元で育成する資質・能力

| ①知識・技能 | ②思考力・判断力・表現力 | ③態度 |
|---|--|--|
| ○言葉の仕組み（語順）への理解 ○言葉の表現に関する知識 ○言葉の表現の使い方に関する技能 | ○相手に応じて、基本的な英語表現（[can],[is chasing]）を用いて、自分の思いを伝える力 ○相手や状況に応じて、必要な情報や英語とを関係付ける力 | ○相手やその背景にある文化的態度を尊重し、コミュニケーションを図る力 ○相手に一度 |

5 指導の構想

子どもは、社会科、道徳等で世界の現状や諸問題について学んでいる。また、単元前半（一次）において、絵本教材の体験活動を通して、動物にかかわる語彙や基本的な英語表現（現在進行形）を知っている。このような子どもに絵本教材の内容やその意図を考えさせる。すると子どもは、社会科、道徳等で学んだ知識を基に、世界の現状や諸問題に着目し、世界平和について真剣に考え、状況をよきと捉え、交流している中国の先生から「みさんの考え World Peace という目的や場面、状況に応じて、自分の思いを伝えるために必要な情報と英語とを関係付け、どんな内容をどのよう伝えるかを考えるようになる。教師は、子どもが考えた情報と英語とを後で追加・修正できるように働きかけ、必要な情報と英語とを関係付けて、会話を追いかける。

働き掛け1
 中国の先生を想定したALTとのコミュニケーションを図らせる場面を設定し、感想を問う。

問をもちたせるための働き掛けである。子どもは、考えた会話文（①知識・技能）を使い、実際にやり取りする場を設定する。子どもは、考えた会話文「自分たちの伝えたいこと、友達と伝わるように、ALTと自分の思いを伝える。そして、考えた会話文と実際のやり取りを比較し、相手のこと（反応を含む）を考えてやり取りする必要があると考えるようになる。しかし、どうしたらよいか分からない（問いをもった）状態である。

働き掛け2
 目的（課題）に立ち返らせ、これからどうしたらよいかを問う。

課題解決の見通しをもたせるための働き掛けである。問をもちた子どもに、目的（課題）が何であったかを考えさせ、これからどうしたらよいかを問う。子どもは、目的とALTとのやり取りとを関係付けて、目的達成のために必要なやり取りを見直し、このように子どもにこれからどうしたらよいかを問う。すると、友達と伝わるように必要な情報と英語とを関係付けて、再構築した（②思考力・判断力・表現力）会話文をタブレット端末上で追加・修正する（ツール活用能力）。そして、課題解決の見通しをもつ。

働き掛け3
 追加・修正した会話文で目的を達成させる場面を設定し、その結果を問う。

目的を達成させるための働き掛けである。動画を撮影させながら実際にやり取りをさせる場面を設定する。子どもは、中国の先生（場面）に、テレビ電話で（状況）自分の考えるWorld Peaceを伝える（目的）ために、自分の思いと英語とを関係付け、積極的に（③態度）、ALTとのやり取りで追加・修正した会話文を使って、コミュニケーションを図る（①知識・技能、②思考力・判断力・表現力）。その後、中国の先生に自分の思いが伝わったどうかを問うことで、相手の反応に応じて、必要な情報と英語とを関係付けて、コミュニケーションを図り（C n）互いの思いを伝え合えたことを実感する。

働き掛け4
 ワークシートやタブレット端末の記録や動画をもとに、授業で得たものを問う。

資質・能力を発揮したことで、目的を達成したことを自覚させるための働き掛けである。ワークシートの記述、タブレット端末の履歴から授業で得たものを問う。子どもは、「自分の個性と友達の個性を[can]や[~ is chasing ~]等で表現して、それを認め合う[It's good!等]大切さを伝えたら、中国の先生もそれが一番大切。と、中国の先生の考えていることと同じで、嬉しかったし、これからも大切にしていきたいと思った」と内容で得たことと、言語で得たことの両方を自覚する。

6 指導計画 全8時間 (24Q)

別紙「単元カード」参照

7 本時の構想<第1日目> 7/8時間 (45分授業)

(1) 本時のねらい (本時 7/8時間目)

ALTとの試しの活動をすることで、目的達成に必要な情報や英語が妥当かどうかを考え、相手や相手の反応に対し、情報や外国語を修正したり、追加したりすることができる。

(2) 展開

| 学習活動と子どもの姿 ☆考えるすべ | 教師の働き掛け |
|---|---|
| <p>1 - ① グループごとにショーン先生とコミュニケーションを図る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>A:Let's play tag! All:Yes, let's. B:Who are it? C:I'm it. C:I'm chasing D. (追いかける) D:Wow, You can run fast. C:Of course. I like sports. Do you like sport? D:No, I don't. But, I can play the piano. C:Really? I can't play the piano. C:You can play the piano. D:You can play sports. D:I'm chasing A. (追いかける) … ※4人組でお互いに追いかけてっこをして、捕まえた らお互いのよさについて伝え合う。 All:We can do different things. But, we are good friends! B:Show me the piano,please. D:Sure!</p> <p style="text-align: right;">☆外国語①</p> </div> <p>2 - ② 体験から考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お互いの出来ることが違うことは伝わった。 ・でも、ショーン先生は、なんだか首を傾げていた。 ・確かに。途中で質問もしていた。多分、「何て言ったの?」と言ったんだ。 ・でもぼくたちはそれを無視して続けちゃった。だから、分からなくなっただと思う。 ・そっか!でも、いきなり質問されるとどうしたらいいか分からなくなる。 ・それから、最初と最後が突然すぎるって言われたと思うよ。 | <p>○学習問題を提示する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>ショーン先生に自分ができていることを伝えて、本当に伝わったり、興味をもってもらえるかどうかやってみよう。</p> </div> <p>○指示「ショーン先生とコミュニケーションを図らせる場を設定する」 【働き掛け1 - ①】</p> <p>※ ALT は、リアクションを返したり、終わった後にアドバイスしたりする。</p> <p style="text-align: center;">←</p> <p>左の内容は、子どもが考えた「World Peace」の表現例。 ※子どもが考えた実際の内容は、【資料】をご覧ください。</p> <p>○発問「コミュニケーション後に、感想を問う」 【働き掛け1 - ②】</p> |

2 課題に立ち返り、考えた会話文と実際の会話を比較する。

- ・そうだった。World Peace を伝えるために、この発表を考えたんだった。
- ・だったら、お互いに来ることを発表するだけじゃダメだよ。
- ・しっかり伝えたいことを伝えないと。
- ・だったら…。

☆外国語科② ☆ツール活用能力

- ・ちょっと修正してみたから、練習させて。
- ・いいよ。

All: We are good friends!

All: I want to be many friends.

A:Let's play tag! All:Yes, let's.

B:Who are it? C:I'm it.

C:I'm chasing D. (追いかける)

D:Wow, You can run fast.

C:Of course. I like sports.

D: You like sports.

C:Do you like sport?

D:No, I don't. But, I can play the piano.

C:Really? It's great! I can't play the piano.

You can play the piano.

D:You can play sports.

D:I'm chasing A. (追いかける) …

※4人組で互いに追いかけてっこをして、捕まえたらお互いのよさについて認め合う。

All:We can do different things.

But, we are good friends!

It's important! How about you, Ms. Mary?

B:Show me the piano,please.

D:Sure!

☆協働性 ☆外国語科①②

- ・これに Mary 先生のこと絡められるいいな。例えば[Do you like ~?][Can you play ~?] なんかを使ってみて、僕たちだけでなく、Mary 先生も仲間ってことさ。
- ・でも、英語を忘れたら助けてね。
- ・そうだ。付箋アプリに入れておこう。

☆ツール活用能力

○提示「目的を提示する」

中国の先生にみなさんが考える World Peace を伝えよう！

○発問「課題に立ち返らせ、これからどうしたらよいかを問う」

【働き掛け2】

左の内容は、子どもが考えた「World Peace」の修正例。
※子どもが考えた実際の内容は、【資料】をご覧ください。

(3) 評価

A L T との試しのコミュニケーションを通して、

- ・課題解決に必要な情報や英語を修正・追記している。(知識・理解)
- ・相手に伝わるように、会話文を再構成している。(思考・判断・表現)
- ・自ら、課題解決に向けて活動している。(態度)